

S M B C C U P
JAPAN KID'S
TAG RUGBY
F R I E N D S H I P

S M B C カップ 第 22 回全国小学生タグラグビー大会

都道府県・ブロック大会
実施概要書／実施マニュアル

令和 7 年

公益財団法人日本ラグビーフットボール協会
SMBC カップ全国小学生タグラグビー大会実行委員会

目次

—大会概要—

大会要項	P.3
全大会共通	P.4
大会組織図	P.5
都道府県・ブロック大会担当者一覧	P.7
全国大会 大会規則	P.8
全国大会 競技規則	P.11
全国大会規則・競技規則補足	P.13

■大会概要・大会規則などに関するお問合せ
(公財)日本ラグビーフットボール協会 普及育成部門
ノンコンタクト担当 山崎
〒107-0062
東京都港区南青山 1 丁目 1-1 新青山ビル 東館 5 階
TEL:03-3401-3289

—実施マニュアル—

送付物一覧	P.17
開催前：都道府県・ブロック大会について	P.18
開催前：ポスター掲示・チラシについて	P.19
開催前：参加申込書について、参加申込書の書き方	P.20
募集締切後：参加チーム数途中経過報告シートについて	P.21
実施後：実施報告書について	P.22
実施後：参加選手保険適用について	P.24

■都道府県・ブロック大会・全国大会など大会実施に関するお問合せ
大会事務局 木須／来島
〒105-0004
東京都港区新橋5-9-1 新橋5丁目ビル1F CIC内
TEL:03-5777-6625 FAX:03-5777-5351
Email:tagrugby@cicinc.co.jp

大会要項

都道府県大会

大会名称	S M B C カップ 第 22 回全国小学生ラグビー大会 ○○都/道/府/県大会
主 催	(公財)日本ラグビーフットボール協会
主 管	関東ラグビーフットボール協会/関西ラグビーフットボール協会/九州ラグビーフットボール協会 各都道府県ラグビーフットボール協会
後 援	スポーツ庁、朝日新聞社 (以下、地域毎の後援団体)
期 間	2025 年 8 月～12 月 各主管団体に決定
会 場	各主管団体に決定
備 考	各主管協会にて SMBC の競合にならない企業の協賛は獲得可

ブロック大会

大会名称	S M B C カップ 第 22 回全国小学生ラグビー大会 ○○ブロック大会
主 催	(公財)日本ラグビーフットボール協会
主 管	関東ラグビーフットボール協会/関西ラグビーフットボール協会/九州ラグビーフットボール協会 各都道府県ラグビーフットボール協会
後 援	スポーツ庁、朝日新聞社 (以下、地域毎の後援団体)
特別協賛	S M B C グループ
協 賛	株式会社 WRS JAPAN
期 間	2026 年 1 月～2 月 各主管団体に決定
会 場	各主管団体に決定
備 考	各主管協会にて SMBC の競合にならない企業の協賛は獲得可

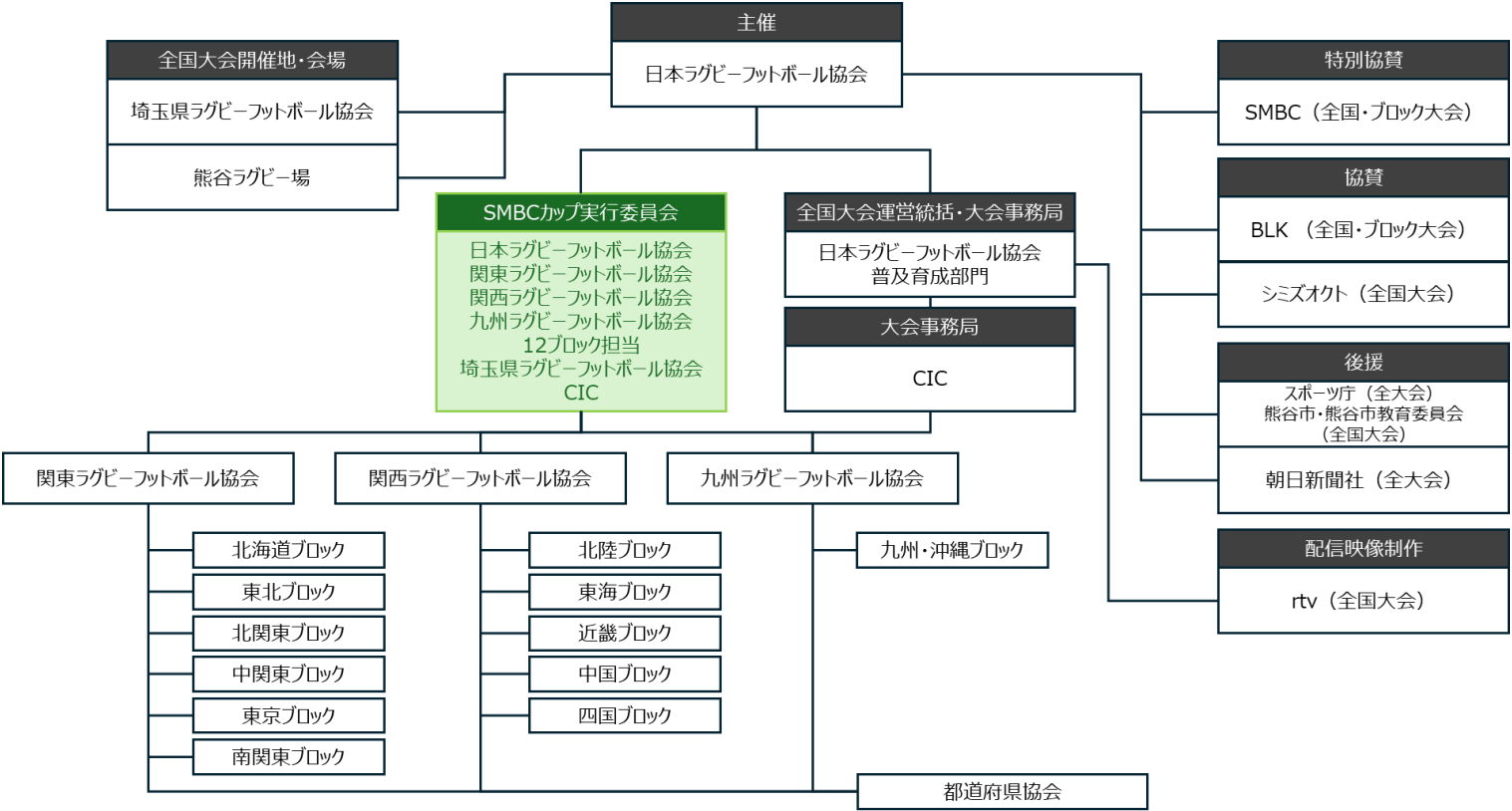
全国大会

大会名称	S M B C カップ 第 22 回全国小学生ラグビー大会
主 催	(公財)日本ラグビーフットボール協会
主 管	関東ラグビーフットボール協会、埼玉県ラグビーフットボール協会
後 援	スポーツ庁、熊谷市、熊谷市教育委員会、朝日新聞社
特別協賛	S M B C グループ
協 賛	株式会社 WRS JAPAN、株式会社シミズオクト
期 間	2026 年 2 月 22 日 (日) ～23 日 (月・祝)
会 場	埼玉県熊谷スポーツ文化公園ラグビー場 (A グラウンド)

全大会共通

- 目 的 全国各地の小学生が、ラグビーからコンタクトを除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。
- 出場資格 小学校 4～6 年生（日本の学期制による）原則 1 チーム・7～10 人とする。ただし、1 チーム 6 人以下の場合は主管団体または主催者に相談すること
- (1) 小学校 4～6 年生(日本の学期制による)で編成したチームで、学年の編成内容は問わない。
- (2) 原則、単一小学校の参加とする。但し、タグラグビー普及の地域差等により単一小学校でチームが組めない場合は、各都道府県の判断で出来るだけ多くの小学生が参加できるよう参加資格の調整を可とする。
- (3) 参加チームは成人 2 名が必ず帯同コーチとして引率し、登録選手の保護者から参加の承諾を得ていること。また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。
- (4) 帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負う事の出来る者であること。
但し、都道府県大会において帯同コーチが複数のチームを兼任する事は構わない。
- (5) 帯同コーチは所属小学校長(複数であれば総て)の承認を受けていることが望ましい。
但し、必ずしも小学校長の承認がなくても、帯同コーチの責任において参加することも可能とする。
- 競技規則 (公財)日本ラグビーフットボール協会(JRFU) タグラグビー競技規則を基にした大会規則とする。
- 競技方法 プール戦とトーナメント戦の併用を基本とするが、参加チーム数により決定する。
- 罰 則 大会要項、大会諸規約、競技規則について、
違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は厳重な処罰を行う。
- 安全対策 (1) 大会期間中は主管団体が所定の救急指定病院を定める。
(2) 大会期間中は、主管団体が担当医師及びメディカルスタッフを任命する。
(3) 試合中の傷害について、当日の応急の医療処置は主管団体が施すが、
事後処理はチーム及び保護者が行うものとする。
(4) 大会期間中の保険は主催者(JRFU)でまとめて加入する。
- 健康管理 (1) 大会参加にあたっては、当該チームにて予め健康管理を行い、充分留意すること。
(2) 試合中以外での病気傷害についてはチーム内で処理すること。
(3) 参加選手は必ず保険証またはそのコピーを持参すること。
- 肖像権 大会出場選手の肖像権は主催者にあるものとする。
※公式ウェブサイト内の掲出や、次年度以降の大会のポスター・プログラム等に使用される可能性がある。
- 表 彰 (1) 優秀チームを表彰する。
(2) その他、各大会主管団体の判断にてチームを表彰する。
- そ の 他 (1) 運営にかかる費用は主催者の規程に準拠する。
(2) 開閉会式は各大会主管団体の裁量により行う。
(3) 都道府県大会の公式戦で使用するタグセット、タグボールは主管団体が用意する。
(4) ブロック大会は大会公式試合球を使用する。
(5) 各チーム帯同コーチ 1 名は、タッチジャッジを務められること。
(6) 全国大会に出場するチームには、主催者が交通費の一部を補助する。

大会組織図



JRFU が提供する都道府県・ブロック大会の運営に活用いただけるプログラム

1. 都道府県・ブロック大会開催費用助成金

助成金額は三支部協会（関東協会・関西協会・九州協会）へお問合せください。

2. 併催するタグフェスへの助成金（都道府県大会のみ）

都道府県大会と併催するタグフェス（タグラグビー交流大会）に対し、都道府県協会単位で活用いただけるタグフェス助成金（最大 10 万円）を設けています。詳細はご所属の協会にご確認ください。

3. JRFU の SNS アカウントによる情報発信

大会公式 Web サイト、JRFU の普及育成 SNS（Facebook、X）等による都道府県・ブロック大会開催情報を発信します。各都道府県協会の Web サイトや SNS に都道府県・ブロック大会開催情報や参加者募集情報を掲載ください。タグラグビーの認知を高め、各大会の参加人数の増加につなげるため、情報発信にご協力をお願いします。

ブロック大会担当者一覧

No.	協会	ブロック	氏名
B1	関東	北海道ブロック	原田 直樹
B2	関東	東北ブロック	伊藤 清孝
B3	関東	北関東ブロック	小平 啓佑
B4	関東	中関東ブロック	水野 和則
B5	関東	東京ブロック	伊東 克俊
B6	関東	南関東ブロック	佐野 芳仁
B7	関西	北陸ブロック	畠中 豊
B8	関西	東海ブロック	渋谷 俊治
B9	関西	近畿ブロック	高橋 一博
B10	関西	中国ブロック	坂本 敦
B11	関西	四国ブロック	井上 哲男
B12	九州	九州・沖縄ブロック	仲間 貴之

都道府県大会担当者一覧

No.	協会	ブロック	氏名
1	北海道	函館支部	矢野 亮一
2		札幌支部	池 史直
3		空知支部	藤岡 慎吾
4		富良野支部	志賀 光
5		根釧支部	太田 拓也
6		北見支部	原田 直樹
7		十勝支部	五十嵐 真佐紀
8		胆振支部	高木 満祐
9		旭川支部	若松 彰彦
10		小樽支部	糸田 晃太郎
11	東北	青森県	西舘 靖
12		岩手県	佐藤 徳代
13		宮城県	近藤 智之
14		秋田県	伊藤 清孝
15		山形県	森 暢仁
16		福島県	金子 浩
17	北関東	栃木県	小平 啓佑
18		群馬県	岡村 大我
19		新潟県	平野 好
20	中関東	茨城県	渡邊 修
21		埼玉県	水野 和則
22		千葉県決勝	高濱 剛
23		千葉県市原	平井 満
24		千葉県浦安	荒谷 遊
25		千葉県東葛	柳澤 佳之
27	東京	予選ラウンド1	伊東 克俊
28		予選ラウンド2	
30	南関東	神奈川県	高山 由一
31		山梨県	佐野 芳仁
32		長野県	宮下 栄一

No.	協会	ブロック	氏名
33	北陸	石川県	遠水 健一
34		富山県	飛田 順平
35		福井県	武曽 一昭
36	東海	静岡県	加藤 勝
37		静岡県東部	岩崎 敦志
38		静岡県中部	亀山 正敏
40		静岡県西部	石原 勝行
41		愛知県	渋谷 俊治
42		三重県	西野 雅裕
43		岐阜県	石竹 敏宏
44		岐阜県関市	
45	近畿	滋賀県 予選	布施 将志
46		決勝	
47		京都府	中住 院一
48		大阪府	石川 悟
49		兵庫県	荒瀬 俊彦
50		奈良県	堀越 知之
51		和歌山県	西谷 勝行
52	中国	鳥取県	山口 明茂
53		島根県	新田 紀久
54		岡山県	松嶋 俊和
55		広島県	岸 源己
56		山口県	有馬 章治
57	四国	香川県	香西 尚治
58		徳島県	辻 智哉
59		愛媛県	竹本 英貴
60	九州	高知県	西田 剛
61		福岡県	小野 創
62		佐賀県	伊藤 正光
63		長崎県	松田 哲朗
64		熊本県	鹿井 康雄
65		大分県	上田 雄一
66		宮崎県	上西 憲太郎
67		鹿児島県	山中 幸治
68		沖縄県	仲間 貴之

第 22 回 全国大会 大会規則

1 グラウンド

グラウンドサイズは横25m×縦30m（トライラインからトライライン）、インゴール（トライラインからデッドボールライン）は各5mずつとする。

なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。

★本大会用の専用試合コート

トライライン		タッチライン		トライライン	
5 m	15m	15m	5 m	25m	
イン ゴ ー ル		ハ ー フ ウ エ イ ラ イ ン	イン ゴ ー ル		

2 用具

- (1) 大会期間中に使用するタグセット、タグボール、ビブスは主催者で用意したものを使用する。
- (2) ボールは4号球を使用し、空気圧は0.5 ～ 0.6kg/c m³。
- (3) タグは日本協会規定サイズ（50 mm× 375 mm）。

3 チーム

- (1) 競技グラウンド内にいる5名のプレーヤーと入替可能な2名以上5名以下のプレーヤーから成り、原則として都道府県大会エントリー時の登録のまま全国大会に出場すること。ただし、プレーヤーの引越し等が生じてチームの人数が5名～6名になった場合はこの限りではない。その際は、帯同コーチは試合出場ができないプレーヤーについての申立書、転校を証明する書類等を大会本部に提出し、許可を得ること。また、この場合の選手補充は認めない。
 - ① コーチは全国大会の各試合において、後半開始時まで登録選手を必ず全員出場させること。これに反する場合、相手チームの不戦勝とする。
 - ② 負傷、疾病が続き、出場可能なプレーヤーが5名以下になった場合、公式試合は行えない。
- (2) 試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。
- (3) 帯同コーチは成人2名とする（そのうち1名は、タッチジャッジが務められること）。コーチは試合中に次のことができる。
 - ① 負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること。
 - ② グランドサイドの主催者が指定する位置で、プレーヤーへの教育的かつ建設的助言を行うこと。
 - ③ グランドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと。
 - ④ ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに給水を行うこと。
 - ⑤ グランドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと。

- (4) 帯同コーチは大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。
- (5) レフリー、大会本部役員はチーム、帯同コーチ、観客の言動が悪質な妨害行為にあたると判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

4 プレーヤーの服装

(1) プレーヤーの服装については以下の通りとする。

- ① チームで統一（スパッツなども含む）された、運動に適した服装（学校体操着など）
運動靴またはトレーニングシューズ。スパイクは、一体成型ゴム底のものとし、金属製取替式ポイントは不可とする。

また、スポンサー名・商品名等の入ったユニフォームについては事前に大会事務局に確認。

<規則に反しない例>



<規則に反する例>



(2) プレーヤーは以下のものを着用することができる。

- ① 髪留め（ゴム製）
② めがね（試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを用いることが望ましい）

(3) 以下の物については着用を認めない。

- ① 手袋（タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため）
② ギブス等医療装具（着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではないから）
③ その他、ラグビーをプレーする上で必要ない物

5 選手の入替え

(1) 入替は以下の時に何度でも可。

- ① ポイント（トライ）後
② ハーフタイム開始時
③ 負傷でゲームが中断した時

(2) 入替は帯同コーチが交代を管理するタッチジャッジに申し出、レフリーが承認して成立する。入替が行われている間、試合は再開しない（時間は継続）。入れ替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備する。

(3) 負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。

6 試合時間

(1) 試合時間は前半5分－ハーフタイム1分－後半5分とする。

- (2) プレーヤーはハーフタイムには、サイドチェンジを行った後にチームから飲水を行える。ただし、自チームベンチに戻ることはできない。プレーヤーは後半開始時には競技再開ができる位置にいないといけない。
- レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたると判断した場合、相手側のフリーパスによる再開を行う。

7 レフリー

- (1) マッチオフィシャルは3名（レフリー1名 タッチジャッジ2名）とする。
- (2) レフリー及びタッチジャッジは主催者が指名する。タッチジャッジ1名については、全参加チームの帯同コーチの中から主催者が指名する。
- (3) タッチジャッジが1名の場合、レフリーは可能な限りグラウンドタッチライン際より判定を行う。
また、レフリーの服装はプレーヤーに準ずる。
- (4) タッチジャッジはタッチライン沿いで以下を行う。
- ① レフリーの判定の補佐。
 - ② 選手の入替の補佐。
 - ③ 負傷者のための試合停止の要請。
 - ④ 帯同コーチ・観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告。
- (5) タッチジャッジはグラウンドサイド、ハーフウェイラインに位置し、以下を行う。
- ① 選手の入替の管理（全員出場の確認を含む）
 - ② 得点の確認
 - ③ チーム、帯同コーチ、観客の悪質な妨害行為に対する警告並びにレフリーへ妨害行為を行ったチーム、帯同コーチ、観客を報告する。
- (6) レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。
- (7) レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。
- ① プレーヤーが負傷し起きあがれない場合。マッチドクターからの要請による場合も同様とする。
 - ② プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合。
- レフリーが、以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。競技時間を停止する場合、レフリーは明確な方法で試合時間の管理者に伝達する。

8 試合時間の管理と試合の記録

- (1) 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。
- (2) 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止めることができる。
- (3) 負傷者の対応により著しく時間をロスした場合、レフリーは自身の判断でロスタイム分の延長を行える。

9 試合終了（ノーサイド）

試合終了（ノーサイド）はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合、その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

10 試合の勝敗について

ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

11 大会形式

主催者による。

第 22 回 全国大会 競技規則

1 チームサイド（ベンチ・グラウンド）/キックオフ/ビブスについて

- （１）チームサイド（ベンチ/グラウンド）は、対戦表の左側チームが、メインスタンドからグラウンドを見て左側。
- （２）試合開始時のキックオフは、対戦表の左側チーム。
- （３）ビブスは、1番から順に着用すること。

2 プレーの方法

- （１）前半開始はハーフウェイライン中央からのフリーパスで行う。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行う。
- （２）試合中、二本のタグを左右の腰に1本ずつ付け、自分の足で地面に立っているプレーヤーは、競技規則に反しない限り自由にプレーすることができる。

3 アドバンテージ

反則が起きてても、レフリーが「反則をしなかった側が有利に試合を進めている」と判断した場合、プレーを続ける場合がある。

4 得点〔トライ〕とその後の再開

- （１）左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手インゴール（トライラインを含む）にボールを着けると1点が得られる（「トライ」）。
- （２）レフリーは、防御側の反則行為がなければトライが得られた、と判断した場合、トライ（「ペナルティトライ」）を与える。
- （３）トライ後の再開はハーフウェイライン中央からトライをとられたチームのフリーパスで行う。
- （４）次の場合、トライは認められない。これらの場合、ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開する（タグの回数は継続）。
 - ①ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていなかった。
 - ②インゴールでタグを取られた後、ボールを相手インゴールに着けた。〔補足〕 このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスをすることで始まる。

5 タグ

防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取り、それを頭上にあげて「タグ」と叫んだら、タグの成立となる。

- （１）タグが起きたら、プレーヤーは次のことを行う。
 - ①タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスする。
 - ②タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡して返す。タグを取られたプレーヤーは、すみやかに相手からタグを受け取り、タグを腰に着ける。
- （２）防御側がタグを4回取ったら攻守交代となる。4回目のタグがあった地点でのフリーパスから試合を再開する。
- （３）タッチライン上またはタッチラインの外にいるプレーヤーも相手プレーヤーのタグを取れる。

6 オフサイド（反則）

タグが起きると、タグを取られたプレーヤーがボールを離れた地点を基準として、トライラインに平行オフサイドラインができる。

- （１）オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がる。

- (2) 下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにする。

7 ノックフォワード・スローフォワード（反則）

- (1) プレーヤーがボールを受け損ねたり、ボールが腕や手に当たったりして、ボールが前に進むことを「ノックフォワード」という。
- (2) プレーヤーがボールを前に投げる、あるいは前にパスすることを「スローフォワード」という。

8 フリーパス

「フリーパス」とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方の2 m以内にいるプレーヤーにパスをすることである。

- (1) フリーパスは、前後半の開始、トライの後、6・7の反則があったとき、その他ルールで定められているときに行われる。
- (2) フリーパスのとき、防御側のプレーヤーは、すみやかにフリーパスの地点から5 m下がる。ボールがパスされれば、前に出ておかまわぬ。
- (3) インゴール及びトライラインから5 m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われない。この地域でフリーパスは、反則等があった地点に近い、トライライン前5 mの地点から行う（「5 mフリーパス」という）。

9 タッチ

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は「タッチ」となる。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行う。ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れる。

10 インゴール、タッチインゴール

- (1) ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、その直前にボールを保持していなかった側の5 mフリーパスで試合を再開する。
- (2) プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、相手側の5 mフリーパスで再開する。

11 禁止事項

試合中、プレーヤーは以下の行為をしてはならない。これらが起きた場合、その地点で相手チームにフリーパスが与えられる。

- (1) 相手選手と接触・衝突すること。接触・衝突につながる行為をすること。
- (2) タグを取る以外の方法で相手の攻撃を止めること。
- (3) 相手をかわす以外の方法で、相手がタグを取るのを邪魔すること。
- (4) その他、タグを投げ捨てたり、相手に文句を言ったりなど、周囲の人たちを嫌な気持ちにさせる全ての行為。

12 その他

競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開する。その時、タグの回数は継続する。

全国小学生タグラグビー大会

大会規則・競技規則補足

この「補足」は、全国小学生タグラグビー大会に出場するチームの指導者、観客、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にタグラグビーを楽しめる環境を作るため、以下についてご理解並び周知、ご指導お願いします。

1 試合進行に対する悪質な妨害について〔大会規則3（4）（5）、7（4）（5）〕

（1）レフリー、大会本部役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対しての悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告以上の処分を科す。悪質な妨害行為とは次の行為を指す。

- ①時間を空費する行為
- ②故意の反則
- ③相手が反則をしているように見せかける行為
- ④暴力行為
- ⑤自チームならびに相手チームプレーヤーへの暴言
- ⑥競技役員、レフリー・タッチジャッジへの暴言
- ⑦その他、レフリーが試合進行の妨げになると判断した行為。
- ⑧レフリングのコールをすること。

→罰：プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。

（2）試合中に上記の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。

- ①プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
- ②帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする（タグの回数は継続）。タッチジャッジ、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
- ③警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー、及び自チームを応援する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。

（3）退場を命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客への罰について

- ①試合中に退場を命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。プレーヤーの退場は原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。
- ②帯同コーチ及び観客の退場は終日有効である。原則として翌日以降には持ち越さない。

2 タグラグビーのプレーについて

（1）腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。

- ①ボールを持って自由に動くこと。
- ②自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げる（「パス」）。
- ③空中にあるボールを捕球すること。
- ④地面にあるボールを拾うこと。
- ⑤保持しているボールをインゴールにつけること。
- ⑥ボールを持っているプレーヤーのタグを取ること。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。

（2）プレーヤーは次の行為をしてはならない。

- ①2本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーする。

- ②ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る。
- ③ボールを離れたときの位置より前方にボールを投げる（「スローフォワード」）。
- ④保持している、または手に触ったボールを前方に落とす（「ノックフォワード」）。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックフォワードにはならない。
- ⑤相手をかわす以外の方法でタグを取ることを妨げる。
- ⑥相手のボールを奪う
- ⑦あらゆる種類のキック。
- ⑧レフリングのコールをすること。

3 接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めねばならない。一切の接触行為並びに接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為並びに接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

①ボールを持っている時

- ・ 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- ・ 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
 - ▶ 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
 - ▶ 複数のプレーヤーが近接して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
 - ▶ 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る。
 - ▶ タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
 - ▶ タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する。
 - ▶ 進行方向に背中を向けて走る、相手をかわすために1回転以上回転する。等

②防御するとき

- ・ タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
- ・ ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為を指す。
 - ▶ タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
 - ▶ タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
 - ▶ 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
 - ▶ ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
 - ▶ ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
 - ▶ ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。
 - ▶ 両手を広げて防御をする。
 - ▶ タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり、ボールを持ったプレーヤーの前に立ちはだかったりする、等。

4 タグ並びにタグの返し方

- (1) プレーヤーは相手のタグを取ったときには、大きな声で「タグ」とコールするとともに、取ったタグを頭上にかかげるように努めること。
- (2) タグを相手に返すときは、必ず手渡しで相手に返すこと。タグを投げつける、押しつける行為はタグを返す行為として認めない。

- (3) タグを受け取ったプレーヤーは、必ずその場でタグをつけてから再びプレーに参加すること。

5 フリーパス時の注意

- (1) フリーパス時、防御側のプレーヤーは、フリーパス開始地点より速やかに5 m下がらなければならない。
- (2) レフリー並びにタッチジャッジは、防御側プレーヤーの後退並びに静止を確認してから「プレイ」のコールをかけること。
- (3) 防御側プレーヤーの後退・静止が十分ではない状況で競技が始まった場合は、レフリー並びにタッチジャッジは直ちに競技を停止し、プレーヤーに注意を与えた上で再びフリーパスを行わせる。指導にかかわらず後退・静止ができない場合、攻撃側に違反のあった地点でのフリーパスを与える。

【実施マニュアル】

送付物一覧

【送付物】

大会事務局（または協賛社）より各都道府県・ブロック大会担当者へ送付するものは以下の通りです。

■7月中

- ・ポスター
- ・チラシ
- ・実施概要書／実施マニュアル
- ・提出用書類一式
- ・表彰状フォーマット

■都道府県大会前

- ・参加者プレゼント（都道府県大会参加者、同日開催フェスタ参加者数分）

■ブロック大会前

- ・公式試合球
- ・タグ&ベルト
- ・ピブス
- ・バナー

※そのほか、追加されるものがある場合は大会事務局からお知らせ致します。

<別紙ご参照ください>

都道府県・ブロック大会 提出物・納品物 スケジュール/チェックリスト							
	送 付 (大会事務局→担当者)		提 出 (担当者→大会事務局)			確認事項	
		到着予定	チェック	提出期限	チェック		チェック
大会前	ポスター	7月中			→	ポスター掲示記録写真撮影	
	チラシ						
	都道府県・ブロック大会実施概要書／実施マニュアル					各種提出・送付物内容確認	
	提出用書類一式						
	表彰状フォーマット						
大会直前	参加者プレゼント	大会3日前まで		募集終了時		到着確認・連絡	
	▼ブロック大会					※到着の有無を事務局までご連絡ください。	
	ピブス	大会3日前まで			→	▼ブロック大会	
	公式試合球					各種送付物到着確認・連絡	
	タグ&ベルト					※開催日3日前までに、到着の有無を必ず事務局まで	
	バナー					ご連絡ください	
大会当日						大会記録写真撮影（試合風景、優勝・準優勝チーム） 参加登録費徴収	
大会後				実施報告書（兼公式サイトニュース資料）→大会事務局 全被保険者名簿→日本ラグビーフットボール協会	終了後 2週間以内	提出先が異なるのでご注意ください。	
	▼ブロック大会					▼ブロック大会	
	全国大会出場チーム都道府県大会参加申込書コピー			終了後翌日中		全国大会出場が決まったチームの都道府県大会参加申込書を	
	全国大会参加申込書			終了後 3日以内		大会当日または翌日までにメールにて大会事務局までご提出ください。	

※あわせて「都道府県・ブロック大会実施概要書／実施マニュアル」もご参照ください。

※連絡・提出はメールにて大会事務局 担当：木須・来島 宛（Tel: 03-5777-6625、Fax: 03-5777-5351、tagrugby@cicinc.co.jp）までお願い致します。

開催前 : 都道府県・ブロック大会にご協賛をいただく場合について

- 本大会では、各地域・都道府県大会、及びブロック大会において、協賛を募ることを奨励しております。各大会担当者の皆さんで大会を盛り立てていただければ幸いです。

※都道府県大会のスポンサーを付けて頂く場合、
JRFU普及育成部門 ノンコンタクト担当 山崎（メールアドレス:non-contact@rugby-japan.or.jp）
まで必ずご一報ください。

- ・ 事後の実施報告書に、ご協賛・ご後援についての記載欄があります。
ご提出時、必ずご報告ください。
- ・ その他、ご不明な点がございましたら大会事務局までご一報ください。

過去の都道府県大会においては地域商店街、スポーツ用品店、自動車販売店などから、
ご協賛を受けた都道府県大会があります。

■過去実績

- | | |
|------------|----------------------------|
| ・北海道札幌地区大会 | ラグビー用品店 |
| ・北海道道南地区大会 | 歯科医院、福祉ハイヤー、ラグビー用品店、居酒屋 ほか |
| ・茨城県大会 | 茨城トヨペット株式会社、株式会社スズキ |
| ・山口県大会 | スポーツ用品店 |

開催前 : ポスター掲示・チラシについて

【ポスター】

■ポスターの仕様

- ・ A2 サイズ（420mm×594mm） ※A4 サイズに折り畳まれた状態でお送りいたします。

■都道府県大会情報記載欄について

- ・ 都道府県大会の告知スペース（サイズ 105mm×218mm）がポスターに設けてあります。
都道府県大会の必要情報を明記してご活用ください。

例) ■ 都道府県大会名称
■ 大会開催日時、日程
■ 会場名
■ 都道府県大会受付の連絡先または住所など
※ その他、参加申込の際に必要な重要事項

■ポスター掲載の記録写真の撮影

- ・ 各所掲示した後、記録としてポスターを掲示してある写真を撮影してください。
- ・ 撮影した写真は後述の「大会実施報告書 ポスター掲示写真」に添付してください。

【チラシ】

■チラシの仕様

- ・ A4サイズ（210mm×297mm）

配布について

- ・ 配布等に具体的制限はありませんので、周知にご活用ください。
- ・ 大会実施報告書に、配布方法、配布部数、掲出状況をご記入ください。
※スポーツ庁、協賛社、関係団体への報告に必要になりますので、出来るだけ詳しく正確な情報をお願いします。

例：〇〇県教育委員会へ依頼し、県内各小学校へポスター、チラシを送付

掲出小学校：●●小学校、〇〇小学校、▲▲小学校、△△小学校

□□小学校、■●小学校、☆☆小学校、★★小学校 他 50 校

開催前 : 参加申込書について

■ 参加申込書

事務局が作成した参加申込用紙を標準としますが、

既存大会の併用や、各協会のフォーマットに則った参加申込書でも構いません。

その場合はチーム責任者の氏名・連絡先、参加選手の氏名・学年・性別・生年月日（主催団体が保険に加入する際必要な情報等）については必ず把握してください。また、別途必要記入事項があれば、備考欄をご利用ください。

事務局作成の参加申込書は大会公式ウェブサイトダウンロード出来ます。

利用フォーマット ⇒ ①第 22 回参加申込書

参加申込書の書き方

■ 以下の 2 つの欄は主管団体で利用してください。

・ 受付 No.

主管団体側が管理し易いようにナンバー等を記入してください。

・ 大会名称

参加チームを受付けた都道府県大会の名称を記入してください。

■ 以下、参加者記入欄（太枠の内側が参加者の必須記入事項になります。）

・ チーム名

参加チームの名称を記入する欄です。 例：東京都港区立新橋小学校タグラグズ

※チーム名には必ず小学校名か、地域名を入れるようにご指導ください。

チーム名の最大文字数は 20 文字までとします。

小学校名、地域名などは略省表記でも構いません。

・ 帯同コーチ 1・2

帯同コーチ（2 名分）の記入欄です。

氏名、及び緊急時の連絡用に携帯電話番号を記入して貰ってください。

・ 出場選手 1～10

出場選手の名簿欄です。最低でも 7 名で登録してください、また最高の登録人数は 10 名です。

氏名、小学校名、学年、性別、生年月日を記入して貰ってください。

氏名は漢字で読みやすく、読み仮名もカタカナで記入、小学校名も同様とします。

※生年月日は主催団体が保険に加入する際必要な情報となります。

・ チーム責任者誓約欄

チーム責任者として参加と大会規則等遵守の誓約をする欄です。

上記帯同コーチのうちどちらか 1 名がチーム責任者となって記入しなければなりません。

チーム責任者の氏名と住所、電話番号などを明記してもらい、印鑑を押して貰ってください。

※その他、必要事項、補足等あれば、備考欄をご利用ください。

募集締切後：参加チーム数途中経過報告シートについて

- 大会の参加募集を締切後に、同封の**参加チーム数途中経過報告シート**を大会事務局に電子メールでお送りください。

参加賞ご用意のための大切な書類となります。必ずご提出ください。

■締切期限

- ・**募集締切後の翌日中**

■ご記入いただきたい内容

- ・参加チーム数と参加チーム数に含まれている初出場チーム数をご記入ください。
- ・参加選手数をご記入ください。
- ・フェスタ（交流戦、タグ体験等を含む）参加者数をご記入ください。
また、フェスタ参加者は小学生以下の参加者、中学生以上の参加者を分けてご記入ください。
- ・プレゼント必要数をご記入ください。
※募集締切後にいただく、都道府県大会の参加者と小学生以下のフェスタ参加者を足した数でご用意いたします。
※提出後、プレゼント数に変更が出そうなときは電話などでご連絡ください。
- ・備考には既に把握しているチーム数や開催内容に変更があった時のような、参加者数減少にかかわるような事項があれば、ご記入ください。

書類①		全国小学生ラグビー大会事務局			
SMBCカップ 第22回全国小学生ラグビー大会 参加チーム数途中経過報告シート					
■以下の内容をEメール（tagrugby@cicinc.co.jp）またはFAX（03-5777-5351）でご連絡ください。					
都道府県大会名					
担当者名					
	参加チーム数（内、初出場チーム数） ※フェスタ参加者は除く	参加選手数【A】 ※フェスタ参加者は除く	フェスタ（交流戦、タグ体験等含む）参加者 小学生以下【B】	中学生以上	プレゼント必要数 【A+B】
最終参加者数	チーム（内、初出場 チーム） 名	名	名	名	個
【備考】※開催内容の変更といった参加者にかかわる特記事項があれば教えてください。					
参加賞送付先	〒				
お手数をおかけいたしますが、ご連絡、お願い申し上げます。					
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; color: red;"> 募集締め切り後、翌日中にお知らせください。 Eメール tagrugby@cicinc.co.jp FAX 03-5777-5351 </div>					

利用フォーマット ⇒ ②参加チーム数途中経過報告シート

実施後 : 実施報告書について

■大会終了後、同封の実施報告書を大会事務局に電子メールでお送りください。

■締切期限

・ 大会開催日から2週間以内

■ポスター掲示写真

- ・ポスターが掲示されている小学校等の写真をご提出ください。
- ・写真の形式は現物もしくはデータ<JPEG1600×1200pixel 程度>でご提供ください。

■掲載記事

- ・大会が掲載された新聞・雑誌記事の切り抜き(スキャン・コピー等して頂いても、本誌でも可)を、貼り付け、掲載紙(誌)・掲載ページ、掲載日も、あわせてご記入ください。
- ・TV、ラジオ等で放映された場合、放映局、放映時間等の情報を、大会事務局までお知らせください。可能であればメディアに保存し、ご送付ください。
- ・インターネットのニュースなどに掲載されている場合は、アドレスやサイト名をお知らせください。
※JPEGなどの画像データの場合は、貼り付けずに電子メールに添付で構いません。

■記録写真

- ・開会式、表彰式、試合風景、集合写真など、大会が行われたことがわかる写真(2～3枚)を報告書と一緒にご提出ください。
- ・公式サイト用の写真は、電子メールにて1メガバイト程度、JPEGデータでお送りください。
※画像はワードなどのテキストに張り付けず、別ファイルでお送りください。
- ・電子メール送付が難しい場合は、大会事務局までご相談ください。

■大会終了後レポート

- ・公式サイトに随時掲載させていただきます。頂いた文章は、できるだけそのままの形で掲載させていただきます。
公式サイト : [https:// tag.rugby-japan.jp/](https://tag.rugby-japan.jp/)

利用フォーマット ⇒ ③第22回実施報告書

■ブロック大会終了後は下記写真をご手配ください。

- ・ブロック大会の場合は、念のため、ブロック代表が出場できなくなった場合の次点のチームの記録写真もご撮影ご提出ください。

※大会事務局までご送付いただく場合、写真とチーム名が照合できるようにご提出ください。

(例えば、黄色のユニフォームが〇〇チーム、など電子メール文面に書いてください。)

- ・全国大会出場チームの集合写真、並びにそのチームの試合風景写真

※**必ずバナーを持って撮影ください。**全国大会プログラムに掲載されます。

大会終了後 3 日以内に画像データを電子メールでお送りください。

■例



実施後 : 参加選手保険適用について

(1) 保険加入手続きについて

(公財) 日本ラグビーフットボール協会にて一括で加入手続きを行います。

(2) 参加者からの保険料徴収について

参加選手からの保険料の徴収は不要です。

保険料は(公財) 日本ラグビーフットボール協会が負担します。

(3) 全被保険者名簿の提出、参加人数の報告について

保険適用にあたっては、対象となる参加者全員の情報が必要となります。

* 都道府県大会開催日より一週間以内にご報告ください。報告は都道府県大会参加者名簿にてお願いします。

* 提出先： 〒107-0062 東京都港区南青山 1 丁目 1-1 新青山ビル 東館 5 階

(公財) 日本ラグビーフットボール協会 事務局 担当：山崎貴志

(4) 傷害が発生した場合について

* 都道府県大会開催日より 30 日以内にご連絡ください。

* 添付の「傷害報告書」に記入し、下記保険代理店に F A X または e-mail にて報告してください。

「近鉄保険サービス(株) 全国小学生ラグビー大会 担当者：山際」

TEL : 06-6763-4331 FAX : 06-6763-4333 e-mail h-yamagiwa@kintetusu-hoken.co.jp

* 報告後は、以下のように保険会社と被保険者で直接やり取りいただきます。

①参加選手へ引受保険会社から必要書類が送付されます。

②参加選手で必要書類を記入し、引受保険会社へ返送します。

③参加選手へ引受保険会社から保険金(補償金)が入金されます

(5) その他

保険料の徴収はありませんが、大会運営費用の一部を参加費として参加者から徴収することは可能です。参加費徴収の判断は都道府県協会の裁量にお任せいたします。

本件につきましては、貴協会の普及育成委員長へも周知徹底をお願い申し上げます。

(6) 本件問合せ先

(公財) 日本ラグビーフットボール協会 普及育成部門 ノンコンタクト担当 山崎 電話番号：03-3401-3289

利用フォーマット ⇒ ⑤傷害報告書(SMBC カップ)(2024 年修正版)

■補償内容

▽補償対象

- ・参加選手 → 被補償者です。
- ・帯同コーチ → 被補償者扱いとなります。(参加申込書に名前を頂戴しているコーチのみ)

▽補償範囲

- ①大会参加中に参加者が被った傷害
- ②大会参加者名簿に記載された所在地から大会会場の往復途上も補償されます。
但し、往復途上で宿泊を伴う場合および所在地から大会会場までの通常の経路を逸脱されますと補償されません。
※往復途上の補償は上記の名簿に加えて開催日、開催場所が確認できる客観的資料の提出が必要です。
- ③各大会で加入された保険は、その後のブロック大会、全国大会も適用されます。
※ブロック大会も、参加者名簿のご提出をお願いします

▽補償内容

- ①死亡／後遺傷害 ￥5,000,000-
- ②入院保険金日額 ￥3,000-
- ③手術保険金 a.入院を伴う手術 入院保険金日額×10 倍
b.日帰り手術 入院保険金日額×5 倍
- ④通院保険金日額 ￥2,000-

▽特約

- ①往復途上傷害危険特約
- ②熱中症危険補償特約

▽ご加入の保険には保険金をお支払いしない場合やお支払する限度等がございますので
ご不明な点がございましたら下記へお問い合わせください。

近鉄保険サービス(株) 全国小学生タグラグビー大会 担当者：山際 様

TEL：06-6763-4331 FAX：06-6763-4333